

工業蒲田

所 目 29 番 8 号
 行 田 1 7821 (代) 組 合 会
 区 蒲 業 及 編 集 道 所
 田 (3732) 工 集 誌 印 刷 所
 大 話 田 編 関 増 印 刷 中 央 式 会 社
 都 電 蒲 機 東 京 都 城
 東 京 都 城 東 区 中 央 区 目 5 番 1 号

年頭ご挨拶



蒲田工業協同組合

理事長 増田道造

新年あけましておめでとうございます。組合員並びに木鶏会の皆様には、小企業を取り巻く経営環境は以前より増して予想を遥かに超えた厳しい状況の一年でもあったと痛切に感じています。

昨年を顧みますと、われわれ中小企業を取り巻く経営環境は以前より増して予想を遥かに超えた厳しい状況の一年でもあったと痛切に感じています。

しかしながら、昨年の夏頃から厳しい経営基調は変わらないもの存でございます。

昨年を顧みますと、われわれ中小企業を取り巻く経営環境は以前より増して予想を遥かに超えた厳しい状況の一年でもあったと痛切に感じています。

の日本経済は若干の好転の兆しが見え隠れしていると考えております。このような状況下で組合員の皆様の相互理解と努力で良い結果が持たせられる様に頑張りたい所存でございます。

昨年を顧みますと、われわれ中小企業を取り巻く経営環境は以前より増して予想を遥かに超えた厳しい状況の一年でもあったと痛切に感じています。

の日本経済は若干の好転の兆しが見え隠れしていると考えております。このような状況下で組合員の皆様の相互理解と努力で良い結果が持たせられる様に頑張りたい所存でございます。

昨年を顧みますと、われわれ中小企業を取り巻く経営環境は以前より増して予想を遥かに超えた厳しい状況の一年でもあったと痛切に感じています。



過言ではありません。具体的には、組合活動の現状分析及び組合を取り巻く経営環境の把握などを踏まえて、組合経営活動の再構築の検討と組合員の皆様に対するPR活動を積極的に実施しました。

しかしながら、組合員数の減少は断じめがかけられず、その他の事業収入の減少は著しいものがあり、このような状況下にも拘らず組合建物の雨漏りや老朽化がひどく、防水加工をやむなく実施しました。また、組合収支の改善と組合建物の一・二階部分の有効活用策として、トランクルーム業者に賃貸することで組合資産の強化を図る事になりました。組合員皆様のご理解とご協力をいただき、本年が組合員皆様の更なる飛躍の年となり、新年のご挨拶とさせていただきます。

「外交と日本」
 キヤスター・ジャーナリスト
 工藤雪枝

今日は「外交と日本」というタイトルの記事が載っています。私自身はいたく当たり前のことを言っているつもりなのですが、二年程前に「特攻へのレクイエム」という本を中央公論より出版致しまして、これは特攻隊等に関するもので、今の日本人本がどんな風に見えるのだろうかという観点から、自分なりのジャーナリズムでの経験や様々な経験等を含めてお話しさせて頂きたいと思っております。

私はインターネット等で自分「工藤雪枝」と入れて見ますと、右翼の女性であるとか保守層の女性であるとか、だいたいにおいて

目次

- ① 「年頭ご挨拶」
- ② 「外交と日本」
- ③ 「新春講演会」
- ④ 「新春賀詞交歓会」
- ⑤ 「組合員便り」
- ⑥ 「業務報告」
- ⑦ 「掲示板」
- ⑧ 「年賀広告」

(前項から)
す。もしかしら私が考えている
考えは非常に保守的なのかもしれ
ませんが、それは海外と比較した
場合に日本の常識が世界の非常識
或いは世界の常識が日本の非常
識、そういう感じがしてな
りません。
例えば靖国神社問題、代替慰霊
施設をどうするかという問題をみ
ても私はそれを感じます。
実際に外交というのは非常に

利己主義的なものだと思います。
特にヨーロッパに住んでいるとき
に感じたのは性悪主義といえま
すが、本当に国境が何時どう動く
か、わからないという経験です。
なものを感ずるのです。国際関係
でもやっていると、そのドロドロし
たものであって、そのドロドロし
たものの中に国の利益という
ものを確保していくのか、そい
うことをヨーロッパの人々は感
じるところがあると感じます。
ところが日本の場合には心臓のよう
な精神性という支柱が全く欠け
ていて、つくづく感じるのです。
何か言われるとすぐ謝つてしま
う。これは実際の国際連中の中
でもオプティミズムは三位
ですが、アメリカが満ち溢してい
ますから実際には一番支拂つてい
るに拘わらず何も言うことがな
い。そういうふうな国家観の欠如
というのを感じます。その背景
にはプラグマティズムが全く無い
ということがあつたのではないかと
思う次第です。

ですが、日本に帰つて来ますと果
たして日本という国は存在するのだ
ろうかというところを感じます。
戦争が間違つていては否かとい
うことを問はずして国のために
なつた人々を叫ぶというものは至
つて自然な高貴の先進国とこの国
でもやっていると、そのドロドロし
たものであって、そのドロドロし
たものの中に国の利益という
ものを確保していくのか、そい
うことをヨーロッパの人々は感
じるところがあると感じます。
ところが日本の場合には心臓のよう
な精神性という支柱が全く欠け
ていて、つくづく感じるのです。
何か言われるとすぐ謝つてしま
う。これは実際の国際連中の中
でもオプティミズムは三位
ですが、アメリカが満ち溢してい
ますから実際には一番支拂つてい
るに拘わらず何も言うことがな
い。そういうふうな国家観の欠如
というのを感じます。その背景
にはプラグマティズムが全く無い
ということがあつたのではないかと
思う次第です。

メデアの
影響力
何故国家観が無い、外交におい
ても大きな役割を果たすことが出
来なくなつてしまつたかというの
は、戦後の歴史を否定してきた日
本、戦前の歴史を見ることさえも
しなくなつた日本の大きな欠落と
いつたところから生じている。そ
ういふところが大きな不安
がします。歴史を忘れる国の悲劇
を感じて居る次第です。努力をしな
ければ登り坂を下つていくように
ルズルと駄目になってしまつてい
る。人間も国家も共通することだ
い。その中で過去、現
在、未来と連続と続く国家を發展
させて行くという感じが全く日本
の中には無いというのを感じま
す。私は特にメデアにおいてそ
の責任が大きいと思います。私も
連日民救済等事務官事務所)の
トップであつた時にジュネーブ
でインタビュをさせて頂いた
り、明石康さんがクロアチアのザ
グレブに居られた時にインタビュ
ーさせて頂いた時に「日本人の
憲法九条があれば平和が保たれ
る。又国連を通して話し合えば解
る」といふ考えはほとんどない考
え方だ」とお二人とも同じことを
おっしゃつていたのが大変興味深
く感じられます。「日本が国連を
どう使うか」といふことをもって考
えるべきだ。国連を美化すること
なく、国際社会の中で国連をどう
使うかという考え方にならなけれ
ばならない」といふことを日本と

意味における問題点がある。その
一方で保守陣営が理想的かとい
ますとそれも全面的に全てを
美化し過ぎていてという面にお
いて違つて感じます。
日本
の外交の軸
ではどういふところで外交
が形成されていくべきだろ
うかということに関しては二つの
ことを感じます。一つは過去、現
在、未来へと連続と続く歴史の中
でどういふふうな感覚、国家観を
持つのか又国家観を持つてい
る人々に対して何らかの榮譽や名
譽、託しを与える。そういう感覚
をまず持つ。我々が例えば特攻隊
の隊員から託された託がある。或
いは我々が次の世代へと国家とい
うものを發展させて渡して行く義
務があると感ずるといふそのベク
トルを感じることが重要なのでは
ないかと思ひます。
第二にそれを伝える言語、所謂
それは経験や感情というレベルの
言語を伝える言語が必要だと
思ひます。言語というのは複雑に
言いすぎているのですが、短絡的
に言うことと日本では新しい建
物を造る、歴史的な建物を壊す
ということが行なわれています。例
えば防衛庁の中にありました市谷
の一号館、これは陸軍士官学校
の一角、これは陸軍士官学校
のこと、そしてその歴史から一つ
の軸を未来に向けて伸ばして行く
こと、公の精神といふことを二ヒ
リズムを乗り越えて確立していくこ
と、その為には東京裁判史観であ
るところのアメリカ的な考え方と
いうものを一度は否定するところ
から日本の国の再建を初めなけれ

新春講演会 新春賀詞交歓会

蒲田工業協同組合
同 木鶏会

明けておめでとようござい
ます。
皆さま方には、ご健勝にて平
成十六年の新春をお迎えになら
れましたこと心からお慶び申
し上げます。
旧年中は、格別のご高配ご支
援を賜り衷心より厚くお礼申し
上げます。本年も変わらぬご指
導ご鞭撻の程よろしくお願い申
し上げます。
さて、恒例の新春講演会並び
に新春賀詞交歓会を下記の通り
開催致します。

新春講演会
日時 平成十六年一月七日
(午後五時～六時三十分)
会場 ア・ペア
講師 京都大学教授
中西輝政先生

新春賀詞交歓会
日時 平成十六年一月七日
(午後六時四十分)
会場 ア・ペア
会費 七千円

講師には、新春講演会の顔と
なりました京都大学の中西
輝政先生をお迎えして「甦る日
本への道(パート2)」と題しての
講演会を予定しております。
新春早々ご多用中のことと存
じますが、万障お繰り合わせの
うえ、ご出席賜りますようご案
内申し上げます。

講演会のみご出席の方は、三千
円のご負担をお願い申し上げま
す。

ですが、日本に帰つて来ますと果
たして日本という国は存在するのだ
ろうかというところを感じます。
戦争が間違つていては否かとい
うことを問はずして国のために
なつた人々を叫ぶというものは至
つて自然な高貴の先進国とこの国
でもやっていると、そのドロドロし
たものであって、そのドロドロし
たものの中に国の利益という
ものを確保していくのか、そい
うことをヨーロッパの人々は感
じるところがあると感じます。
ところが日本の場合には心臓のよう
な精神性という支柱が全く欠け
ていて、つくづく感じるのです。
何か言われるとすぐ謝つてしま
う。これは実際の国際連中の中
でもオプティミズムは三位
ですが、アメリカが満ち溢してい
ますから実際には一番支拂つてい
るに拘わらず何も言うことがな
い。そういうふうな国家観の欠如
というのを感じます。その背景
にはプラグマティズムが全く無い
ということがあつたのではないかと
思う次第です。



組合員だより

新組合員の紹介
左記の方が新しく組合に加入さ
れましたのでご紹介申し上げます。
記

イーター電機工業株式会社
代表取締役 北川 浩
住所 大田区本羽田二一十六
一〇

業種 スイッチング電源等電源
機器の設計・製作・販売
電話 三七四五一七七

株式会社潮樹樹脂研究所
代表取締役 長谷川敏行
住所 品川区西大井六十一三
業種 工業用プラスチック製品
電話 三七一一〇一五四
(次項へ)

平成十五年五月二十二日
(講演会要旨抜粋)



工場見学

代表者変更
南旺工業株式会社
旧代表者 林 亮
新代表者 林 隆史

訃報
海老名正教氏
当組合元監事・元相談役海老名正教氏は去る六月三十日逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、冥福をお祈り致します。

小林 吉彦氏
当組合専務理事・株式会社日章機械社長小林吉彦氏ご尊父は去る八月二六日逝去されました。謹んでご報告申し上げますと共に冥福をお祈り致します。

鈴木八重子氏
当組合監事・株式会社極東精機製作所社長鈴木健一氏ご母堂は去る

（前項から）
る九月二十八日逝去されました。謹んでご報告申し上げますと共に冥福をお祈り致します。

業務報告

一月七日
1 新春講演会
テーマ 甦る日本への道
講師 京都大学教授 中西輝政氏

二月四日
2 新春賀詞交歓会
中西輝政氏

三月十一日
1 木鶏会総会
2 講演会
テーマ 二〇〇三年世界と日本の行方
講師 国際エコノミスト 金森 薫氏

四月八日
3 懇談懇親会
定例経営サロン(木鶏会)
スタッフコンサルティンク 水野氏
助成金他についてのセミナー 人件費について

講師について
開催日 平成十五年三月十一日
会場 ア・ヘア
講師 国際エコノミスト 金森 薫氏

3 定例経営サロン
エビナ電化工業㈱の会社案内及び特色
三月十一日
1 木鶏会総会
2 講演会
テーマ 二〇〇三年世界と日本の行方
講師 国際エコノミスト 金森 薫氏

五月八日
理事会
議題は常任理事会工程のもの
全員異議なくこれを承認
五月十三日
正副会長会議及び定例経営サロン(木鶏会)
1 工場見学について
開催日 平成十五年七月十五日
見学先 ①伊ノクス 高速金型センター
②平和工業㈱
③エビナ電化工業㈱ テクノマーク
2 納涼経営サロン
会場 牡丹
3 定例経営サロン
ものづくりの技術を守れ
五月二十二日
1 平成十四年度通常総会
可決事項全員異議なく諒承
2 講演会
3 懇談懇親会
六月十日
定例経営サロン(木鶏会)
参加者の業況報告
七月十五日
1 工場見学
2 納涼サロン
七月十七日、十八日
定期健康診断の巡回
八月三日、四日
ヤマサ醤油工場見学並びに大吹崎二泊旅行
九月九日
定例経営サロン(木鶏会)
九月二十四日
キヤスター・ジャリナリスト 工藤雪枝氏
常任理事会

1 屋上防水工事について
2 会館の補修工事について
3 トランクルームについて
4 新春講演会講師について
十月十四日
常任理事会
1 屋上防水工事について
2 会館の補修工事について
3 トランクルームについて
4 新春講演会講師について
十月十四日



正副会長会議及び定例経営サロン 十月二十七日
木鶏会
1 平成十五年九月末試算表報告
全員異議なく諒承
2 忘年会について
開催日 平成十五年十二月九日
会館の補修工事について
異議なく諒承
3 機関紙「工業蒲田」の掲載記事
来年以降は放談会を実施して掲載
十一月十一日
理事会
トランクルーム事業について
全員異議なく諒承
2 定例経営サロン(木鶏会)
本協会及び大田工業連合会の意

十一月二十一日
十五年以上勤続優良従業員に対して区長から感謝状贈呈
（社名五十音順 敬称略）
（株）清川製作所社員
小林吉造、増田和子
太産工業株式会社
安住ハルイ、中村良子、
飛ヶ谷浩、日隈洋子
（株）東京精密器具製作所社員
菅沼茂彦
以上七名

義
十一月二十一日
十五年以上勤続優良従業員に対して区長から感謝状贈呈
（社名五十音順 敬称略）
（株）清川製作所社員
小林吉造、増田和子
太産工業株式会社
安住ハルイ、中村良子、
飛ヶ谷浩、日隈洋子
（株）東京精密器具製作所社員
菅沼茂彦
以上七名



取扱日は左記の通りとさせていただきます。
記
年末 十二月二六日金まで
年始 一月五日日から

1 平成十四年度事業報告・決算報告・剰余金処分案承認の件
全員異議なく承認
2 平成十五年度事業計画案・収支予算案承認の件
全員異議なく承認
3 平成十五年度借入最高限度額決定の件、一組員に対する最高限度額決定の件、手数料最高限度額決定の件
全員異議なく承認
4 講演会
講師
キヤスター・ジャリナリスト 工藤雪枝氏
常任理事会

1 平成十四年度通常総会
可決事項全員異議なく諒承
2 講演会
3 懇談懇親会
六月十日
定例経営サロン(木鶏会)
参加者の業況報告
七月十五日
1 工場見学
2 納涼サロン
七月十七日、十八日
定期健康診断の巡回
八月三日、四日
ヤマサ醤油工場見学並びに大吹崎二泊旅行
九月九日
定例経営サロン(木鶏会)
九月二十四日
キヤスター・ジャリナリスト 工藤雪枝氏
常任理事会

1 平成十四年度通常総会
可決事項全員異議なく諒承
2 講演会
3 懇談懇親会
六月十日
定例経営サロン(木鶏会)
参加者の業況報告
七月十五日
1 工場見学
2 納涼サロン
七月十七日、十八日
定期健康診断の巡回
八月三日、四日
ヤマサ醤油工場見学並びに大吹崎二泊旅行
九月九日
定例経営サロン(木鶏会)
九月二十四日
キヤスター・ジャリナリスト 工藤雪枝氏
常任理事会

1 平成十四年度通常総会
可決事項全員異議なく諒承
2 講演会
3 懇談懇親会
六月十日
定例経営サロン(木鶏会)
参加者の業況報告
七月十五日
1 工場見学
2 納涼サロン
七月十七日、十八日
定期健康診断の巡回
八月三日、四日
ヤマサ醤油工場見学並びに大吹崎二泊旅行
九月九日
定例経営サロン(木鶏会)
九月二十四日
キヤスター・ジャリナリスト 工藤雪枝氏
常任理事会

1 平成十四年度通常総会
可決事項全員異議なく諒承
2 講演会
3 懇談懇親会
六月十日
定例経営サロン(木鶏会)
参加者の業況報告
七月十五日
1 工場見学
2 納涼サロン
七月十七日、十八日
定期健康診断の巡回
八月三日、四日
ヤマサ醤油工場見学並びに大吹崎二泊旅行
九月九日
定例経営サロン(木鶏会)
九月二十四日
キヤスター・ジャリナリスト 工藤雪枝氏
常任理事会

自動車ローン
グループ保険
のお申し込みは
組合へ

☆ ISO14001・9001勉強会開催のお知らせ ☆
～集団取得方式の説明をかかて～
①2/12 (木) 大田区民プラザ ②2/26 (木) 大田区産業プラザPIO
時間 18:00～21:00 *①、②同時間、同内容です。参加費無料
主題: ISO集団認証取得方式と経営改善・改革の推進について
参加ご希望の方は参加日選択の上、下記までご連絡下さい。参加費をお送りします。
(有)環境経営コンサルティング研究所 東京本部 環境経営プロジェクト室 味木(みき)宛
tel:03-3350-5568 fax:03-3350-5720
e-mail:emci-tokyo@renai-gyoen.com 東京都新宿区新宿1-30-16



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合有志

(五十音順)

機械器具製造業

尼寺空圧工業株式会社
代表取締役 尼寺 実

岡田 鋳 金 株式会社
代表取締役 増田 道造

株式会社 弘 機 商会
代表取締役 坪根 五久代

有限会社 須 藤 製作所
代表取締役 須 藤 敏 男

大成 工 業 株式会社
代表取締役 鎮 目 哲 郎

株式会社 タンケン シールセーコウ
代表取締役 永 井 彌太郎

東 亜 株 式 会 社
代表取締役 小 柳 隆

株式会社 東京精密器具製作所
代表取締役社長 西ヶ谷 好 隆

長 坂 精 機 株式会社
代表取締役 長 坂 基 秀

株式会社 ナ ノ
代表取締役 林 亮

日本チエン・ギヤー無段変速機株式会社
代表取締役社長 加 藤 進 弘

深 尾 精 機 株式会社
代表取締役 中 井 富士夫

有限会社 富士精機製作所
代表取締役 荻 野 茂

有限会社 富士テクノマシン
代表取締役 飯 室 肇

株式会社 藤 原 製作所
代表取締役 藤 原 徳 一

株式会社 文 化 精 工
代表取締役 桑 原 久 直

電気機械器具製造業

イーター電機工業株式会社
代表取締役 北 川 浩

出 雲 電 機 株式会社
代表取締役 雲 野 和 信

太 産 工 業 株式会社
取締役会長 千 葉 博

永 森 電 機 株式会社
代表取締役 永 森 忠 臣

株式会社 日 産 電 機
代表取締役 中 村 國 男

株式会社 マ コ メ 研究所
代表取締役社長 清 水 茂 治 郎

輸送用機械器具製造業

荏 原 工 業 株式会社
取締役社長 長 井 俊 樹

株式会社 大 谷 造 機 所
代表取締役社長 大 谷 文 雄

株式会社 清 川 製 作 所
代表取締役 川 瀨 純 一

謹 賀 新 年

蒲田工業協同組合 (五十音順)

顧問 千葉 博

相談役 西ヶ谷 勝 美

理事長 増田 道 造

副理事長 大谷 文 雄

専務理事 小林 章 彦

常任理事 荻野 茂

常任理事 須藤 敏 男

常任理事 長井 俊 樹

理事 新井 陽 一

理事 岩崎 登 喜 雄

理事 海老名 延 郎

理事 加藤 進 弘

理事 工藤 勝 広

理事 斎藤 喜 久 雄

理事 竹内 榮 多

理事 鳥海 保 男

理事 長坂 基 秀

理事 野口 廣

監事 鈴木 健 一

監事 田村 知 之

事務局長 沢 登 正 彰

(次頁へつづく)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合有志

(五十音順)
(前頁より)

第一金属工業株式会社

代表取締役 菅谷義弘

株式会社鳥海製作所

代表取締役 鳥海保男

金属製品製造業

有限会社相野谷製作所

代表取締役社長 相野谷昌義

金勝産業株式会社

代表取締役 金勝恒男

有限会社川村製作所

取締役 川村有史

株式会社極東精機製作所

代表取締役 鈴木健一

佐々木発條株式会社

代表取締役 佐々木毅彦

有限会社タムラ精工

代表取締役 田村知之

ティヴィバルブ株式会社

代表取締役 竹内榮多

同和発條株式会社

取締役社長 川嶋治彦

株式会社羽田パイプ製造所

代表取締役社長 野口廣

有限会社早崎製作所

代表取締役 早崎吉春

株式会社松原製作所

代表取締役 松原一喜

プレス・鍍金・製罐業

株式会社新井久四郎鉄工所

代表取締役 新井陽一

株式会社内田製作所

代表取締役 内田正勝

株式会社内原製作所

取締役 内原康雄

有限会社京浜プレス工業所

代表取締役 斉藤喜久雄

有限会社師岡鍍金製作所

専務取締役 師岡正雄

めっき業・アルマイト業

エビナ電化工業株式会社

代表取締役社長 海老名延郎

株式会社三協アルマイト

代表取締役 岩崎登喜雄

鋳物・鍛造業

有限会社京浜鋳造所

代表取締役 神道晃

その他

株式会社金井製作所

代表取締役社長 金井信

株式会社気球製作所

取締役社長 豊間厚

労働衛生コンサルタント・産業医
佐藤事務所
医学博士 佐藤精一

ジャパン・アヴィエーション・

サービス株式会社

株式会社中央テクニカ

代表取締役 木戸隆博

南旺工業株式会社

代表取締役 林隆史

株式会社日章機械

代表取締役社長 小林章彦

林総事株式会社

代表取締役 林源

株式会社ユタカ製作所

代表取締役 高井薫平



HACCP高度化基準認定工場

となんのお料理をどうぞ

都南工業給食協同組合

大田区南六郷三一五五一

TEL 三三三二一七四五(代)



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合有志

(五十音順)

(前頁より)

第一金属工業株式会社

代表取締役 菅谷義弘

株式会社鳥海製作所

代表取締役 鳥海保男

金属製品製造業

有限会社相野谷製作所

代表取締役社長 相野谷昌義

金勝産業株式会社

代表取締役 金勝恒男

有限会社川村製作所

取締役 川村有史

株式会社極東精機製作所

代表取締役 鈴木健一

佐々木発條株式会社

代表取締役 佐々木毅彦

有限会社タムラ精工

代表取締役 田村知之

テイヴィバルブ株式会社

代表取締役 竹内榮多

同和発條株式会社

取締役社長 川嶋治彦

株式会社羽田パイプ製造所

代表取締役社長 野口廣

有限会社早崎製作所

代表取締役 早崎吉春

株式会社松原製作所

代表取締役 松原一喜

プレス・鋅金・製罐業

株式会社新井久四郎鉄工所

代表取締役 新井陽一

株式会社内田製作所

代表取締役 内田正勝

株式会社内原製作所

取締役 内原康雄

有限会社京浜プレス工業所

代表取締役 斉藤 喜久雄

有限会社師岡鋅金製作所

専務取締役 師岡 正雄

めつき業・アルマイト業

エビナ電化工業株式会社

代表取締役社長 海老名 延郎

株式会社三協アルマイト

代表取締役 岩崎 登喜雄

鋳物・鍛造業

有限会社京浜鋳造所

代表取締役 神道 晃

その他

株式会社金井製作所

代表取締役社長 金井 信

株式会社気球製作所

取締役社長 豊間 厚

労働衛生コンサルタント・産業医
佐藤事務所

医学博士 佐藤 精一

ジャパン・アヴィエーション・

サービス株式会社

株式会社中央テクニカ

代表取締役 木戸 隆博

南旺工業株式会社

代表取締役 林 隆史

株式会社日章機械

代表取締役社長 小林 章彦

林 総事株式会社

代表取締役 林 源

株式会社ユタカ製作所

代表取締役 高井 薫平



HACCP高度化基準認定工場

となんのお料理をどうぞ

都南工業給食協同組合

大田区南六郷三一五五一
TEL 三三三三―七四五二(代)

